

第27回 大鹿村リニア連絡協議会質疑応答概要

日時：令和5年3月22日 午後7時から

場所：大鹿村交流センター

1. 県発注工事について

○橋梁架替え工事をしている付近から安康露頭までの間の舗装がかなり損傷している。現在もまだ深ヶ沢の先から（飯田市方面）は通行止めとなっているが、露頭は学習施設ではあるが、観光面でも誘客したいと考えている。なるべく早く舗装修繕をお願いしたい。

A：舗装の状態が悪いことは認識しています。現場の方を確認し、優先度を勘案の上、順次対応していきたいと思います。

○トンネルの粉塵の件ですが早速対応していただきありがとうございます。観光面また村民の健康面を考慮していただき継続的に粉塵の対応をお願いしたい。

A：今年度の対策につきましては2・3月で対応しておりますが、また状況をみながら対応したいと考えております。

○東山トンネルの電光掲示板ですが、センサーが付いていて停止車両がいる場合は、停止車両ありを示すようなことができるのでしょうか。

A：今回の電光掲示板は速度の減速や幅員が狭くなるといった注意喚起を促すもので、センサーで滞留をお知らせできる対応はしておりません。またご意見として承り検討させていただきたいと思います。

2. 南アルプストンネル工事・伊那山地トンネル工事について

○工事車両台数に関して運行の行き違いについて半の沢から渡場までの間が特に気になる。6月から運行台数540台と示されているが、これまでの台数を考慮すると大丈夫なのかと不安になるが問題ないのか。

A：半の沢から渡場までの間について、4月から5月までの240台という数字は今までで最も少ない台数です。6月の540台はこれまでの実績を踏まえると昨年、伊那工業団地、駒ヶ根市上赤須、高森町へ発生土を運搬していた頃と同じ位の台数となるため今までよりも台数が増えることではありません。

○リニア工事全体の遅れを感じているが、前々回の連絡協議会において静岡県が遅れても長野工区は工区の変わりはないと部長の方から言っていた。ただここまで工事の遅れが生じ、仮に静岡県で条件が整い工事に着手できることになった時、遅れがあったものに対して長野県側から掘削するというようなことにならない事をはっきり言っていたのか。これに対して私たちは安心を得たい。

A：静岡工区につきましては今真摯に担当がいろんな各所に説明しているところであります。また静岡県との工区境を静岡側へ食い込ませて長野県から掘削することは考えていません。これまでの回答と同じです。

○鳶ヶ巣沢環境対策事業が動き出したことにほっとしているが、ただ工事スケジュールに則ってきちんと進んでいるのか。もう少し詳しく教えていただきたい。

A：この工事は、河川内の工事ではいろいろな申請が必要となりますが、申請をする中で当初考えていた設備等に変更があり変更手続きに時間を要し3月に本格的に工事に着手しています。今回の非出水期までの工事は、河川流量も踏まえ5月まで撤去工事も含めて工事を進めます。

○鳶ヶ巣沢は第2 渇水期の秋から運搬が始まるということでしょうか。渇水期が終わって次の年から運搬が始まるという考え方でよろしいでしょうか。

A：鳶ヶ巣盛土の工事スケジュールは、9月の連絡協議会また10月の住民説明会の資料で説明させていただきました。鳶ヶ巣盛土は河川付近での工事でもあるので、まず準備工や護岸工を行います。この準備工、護岸工等は、今年度、次年度、次々年度の3 渇水期に分けて工事を行う予定です。先ほど工事の着手が遅れたとご説明しました、残りの渇水期に計画どおりしっかりと工事を行い、令和6年度より着手を考えております。

○釜沢水源の件ですが、次の環境調査の結果が公表されると時は湧水量と降水量の関係がわかるような形を示していただけなのか。

A：湧水量と降水量のデータを別々に示していますのでデータがわかりづらいというご指摘を受けております。データの関連性がわかりやすく示せるように検討しています。

○釜沢非常口から現在は本坑を掘削して先進坑は掘削していない状況であると思うがこのまま先進坑は掘削しないのか。

A：現在、釜沢非常口から品川方へ本坑を掘削しておりますが、小河内沢川の下を掘削する際は慎重に進めたいと考えておりますので、小河内沢手前の辺から本坑掘削から先進坑掘削へ移行し先進坑を除山非常口へ向かって掘削する計画でいます。

○先進坑は先進坑だけでなく他の使い道があるような話も聞いたが先進坑が繋がらないか可能性があるのでしょうか。

A：将来的に先進坑を非常口として使うこともありますが、釜沢非常口と除山非常口は近いことから今の時点で実際非常口として使うかどうかは決まっています。最終的にそのまま掘らない（繋がらない）という選択肢もあります。その分は発生土が減ることになります。

○小渋川でヒ素の量が 0.001 mg/l（定量下限値 10 分の 1）が検出され、これは仮置き場に要対策土を仮置きしたことによる関係性どうなのか。

A：ヒ素を含んだ要対策土を仮置き場に置く前から小渋川である程度のヒ素の数値を検出しておりますので要対策土を置いたから数値が大きくなったということではありません。

3.対策土の活用に向けた検討について

○試験施工した箇所は原状回復してお返しいただくことでよろしいか。

A：その通りでございます。試験施工の実施箇所は、変電所計画地でもあるので、試験施工で造成したものは撤去したうえで、変電所建設のための造成工事を行う予定です。

○撤去とは敷地内のどこかへ移動させてどこかで使うことでしょうか。

A：試験施工の結果も踏まえ再利用が可能であれば、変電所工事で有効活用することを考えています。再利用が難しいということであれば、適切に産業廃棄物として処分します。

4.送電線工事について

○7月8日から23日にかけて観光協会ではブルーベリーフェスを計画しています。また15～17日にかけてはイベントを開催する予定です。こちらの方どのようにご対応いただけるでしょうか。

A：15～17日の3日間はヘリコプターの運行はしないように配慮して計画します。また8日～23日の週末の運行も控える方向で調整させていただきます。

5.その他 事務局からの報告

○会議の形になりますが、一方的な工事説明が主となり、会議の参加者がその他に発言できるようにその他のその他をいれるなど改善をしていただきたい。

○工事の終わりが終わりではなく地域振興や観光振興、商業振興を目的とした協議会みたいなものに工事後もJ Rに参加していただきたいがどうでしょうか。

A：J R東海も旅館業を行っていますので集客は大切なもの考えています。ご協力させていただきたいと思います。今ここにいるメンバーは建設のメンバーなので詳しいノウハウはありませんが、会社には飯田線の担当や営業に長けた人材も当然います。これらの人材もいれていただき参加させていただけばと考えます。

○鹿島J Vさんには地元雇用に色々努めていただきありがたいのですが、村内の既存施設で働いている人を引き抜くような声掛けは遠慮していただきたい。人口900人ほどで働ける人も限られている。村内に住んでいただきながら働いてくれる方も含めて働き手を探していただきたい。

A：詳細のところの認識不足で申し訳ありませんでした。今後このようなことがない形で引き続き進めてまいりたいと思います。